

## ～令和4年4月 データから見た業界の動き～

### 4月報告のポイント

#### 景気の回復を実感する事業者は多いが収益は減少

#### 事業者が考える直近の課題は「人材の強化」

##### ■ 概 況

4月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で売上高+10ポイント（前年同月比±0）、収益状況▲30ポイント（前年同月比▲20）、景況感▲6ポイント（前年同月比+16）となり、令和3年2月以降初めて収益状況が前年同月のポイントを下回った。

業種別で製造業は売上高+15（前年同月比+25）、収益状況▲40（前年同月比▲20）、景況感▲5（前年同月比+25）となった。

食料品製造業では、感染症による行動規制が解除されたことから業務用商品の売上げが増加、パン・菓子製造業でも売上げが好調と報告された。一方、家具製造業、電気機械器具製造業からは長引く原材料・燃料の高騰から収益状況が悪化、電気機械器具製造業でも原材料の不足や高騰により収益が圧迫され今後は販売価格について取引先との協議が重要であるとの報告があった。

非製造業では、売上高+7（前年同月比▲16）、収益状況▲23（前年同月比▲20）、景況感▲7（前年同月比+10）となった。

商店街からは感染症拡大前の水準には程遠いが売上げが増加し収益が好転、宿泊業からも平日、休日ともに施設の稼働率が上昇、旅客運送業（タクシー）からもわずかではあるが稼働してきているとの報告があり、イベントの開催や観光客の来県により今後はさらなる人出の増加を期待しているとの声が聞かれた。一方前年度との対比では、商店街や宿泊業の売上げが下がり、売上高D.I値が前年同月を大きく下回った。加えて、飲食料品小売業からは、仕入れ価格が今までにないほど上昇し収益が減少、ガソリンスタンドでも、原油価格が下降傾向にあるものの、円安の影響から仕入れ価格が高水準で推移、国の施策を活用しても状況は好転せず、対応に苦慮している様子。食肉小売業からは、人流の回復は実感しているものの、物流の混乱やウクライナ情勢の影響による航空貨物の減少、円安、原油価格の値上がりなど、今後の景気回復を妨げる材料が多いことを懸念している声が聞かれた。

4月は人出の増加により景気の回復を感じる事業者が多い反面、感染症の影響が継続している中で起こったロシアのウクライナ侵攻、それに追い打ちをかける急激な円安の進行により、事業者にとっては先行きの見えない不安定な経営環境が続いている。

2022年4月1日発表の日銀短観では、景況D.I値が2020年4～6月期以来7期ぶりに悪化した。このような中でも個人消費はコロナ禍以前に戻る傾向も見受けられ、経済状況の変化の予感がされることから、今回中央会では、日々変化する経営環境に合わせて経営を行っていくために企業が今年強化することについて調査を行った。（複数回答可）

調査対象企業50社のうち42社から回答があり、52%（回答企業の数に対する割合）が、「人材の強化（採用・育成・教育訓練）」と回答した。景況調査のコメントにも「人材育成及び生産性の向上が急務」（木材製品製造業）、「職人の不足・高齢化が進み、事業承継の問題から廃業を決めた組合員がいる」（型枠工事）、「会社が求める条件を満たす人材の確保が困難」（トラック）と報告があったように、人材の確保・育成を課題と考える事業者が半数以上となった。次に「営業力の強化」が30%、「資金の確保・積立」が23%となった。一方、「今は様子見の状況」との回答も28%あり、様々な要因から目まぐるしく変化する状況下では、経営判断を行わず先行きを静視している事業者の様子もあることが伺えた。

中央会では、講習会の開催や専門家の派遣を行い、企業が抱える課題の解決を図り適正な事業活動ができる環境の整備を目的とした支援メニューを強化していくこととしている。

■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

● 製造業

<p>食料品 (水産物加工業)</p>	<p>行動規制が解除されたことから、業務用及びギフト関連商品の売上げが前年同月と比べ66%ほど増加した。コロナ以前の水準の90%程度に回復したが、今後は原材料及び燃料の高騰が不安材料である。</p>
<p>食料品 (洋菓子製造業)</p>	<p>月末の休日には外出する消費者が多く巣ごもり需要は伸び悩んだが、売上げは前年同月と比べ33%増加し、好調を維持している。</p>
<p>食料品 (パン・菓子製造業)</p>	<p>売上げが前年同月と比べ20%の増加となったが、原材料の高騰により利益を出すことが難しく、収益状況は好転していない。</p>
<p>木材・木製品製造</p>	<p>輸入材の高騰により国内材の需要が高まっているが、供給が追いついていない。林業全般の人材育成及び生産性の向上が急務であると考えている。</p>
<p>家具製造</p>	<p>取引先からはコストダウンを要求されているが、原材料価格の高騰や人材不足による残業の増加などから、収益状況は悪化している。</p>
<p>紙製造業</p>	<p>原材料高騰分を価格に転嫁したいが追いつかないほど値上がりしている。各原材料の値上げの足並みが揃わないため販売価格をあげるタイミングが図れず、対応が難しい。</p>
<p>鉄鋼・金属 (金属製品製造業)</p>	<p>人材不足が深刻化している。あわせて従業員を募集しているがほとんど応募がない状況。</p>
<p>一般機器 (業務用機械器具製造業)</p>	<p>受注量に変化はないが、原材料価格がさらに高騰し収益を圧迫している。今後も厳しい状況は続くと考えている。</p>
<p>一般機器 (生産用機械器具製造業)</p>	<p>前年同月に比べ、売上げが20%ほど増加した。3月に引き続き、受注が順調に確保できている。5月の売上見込みもすでに前年同月を上回っているが、6月以降の予測は難しく楽観できない。</p>

<p>電気機器 (電気機械部品加工業)</p>	<p>前年同月に比べ、売上げ・収益ともに▲10%となった。受注が伸び悩み、景況感は悪化している。</p>
<p>電気機器 (電気機械部品加工業)</p>	<p>受注が増えて売上げは増加したが、原材料の不足や高騰により収益は悪化している。今後は、取引先と受注価格の見直しを検討することが重要になると考えている。</p>
<p>宝飾 (貴金属)</p>	<p>前年同月に比べ、売上げ・収益ともに▲50%となった。着飾って外出する機会が減少したことが原因だと考えている。</p>

● 非製造業

<p>卸売 (自動車中古部品)</p>	<p>新車販売台数は前年同月比▲12%となり、いまだに納車の遅れは改善されていない。廃車の発生も3～5割ほど減少しているため厳しい状況ではあるが、中古車部品の買取価格が高値を維持していることが唯一の救いである。</p>
<p>小売 (青果)</p>	<p>玉ねぎやジャガイモの仕入れ価格が、今までに経験したことの無いほど高値となり収益を圧迫している。様々な物の価格が上昇し諸経費が増加、収益状況は悪化した。</p>
<p>小売 (食肉)</p>	<p>県をまたぐ移動の制限が緩和され、近隣県民も「やまなしグリーン・ゾーン宿泊割り」の対象となったことから、旅館やホテルの利用者が増加した。しかし、飲食店は会食の減少により売上げは伸び悩んでいる。 中国上海のロックダウンによる船の物流の混乱、ウクライナ情勢の影響による航空貨物の減少、円安、原油価格の値上りなど、複合的な要因で今後も肉の価格高騰や入荷の遅延が予想される。</p>
<p>小売 (ガソリン)</p>	<p>ドバイ原油の価格が下がってきているが、円安の影響から仕入れコストは高水準で推移している。国も4月27日から燃料油価格激変緩和対策事業の補助金上限を35円に引き上げ安定化を図っているが、業界は仕入れのタイミングや運転資金に苦慮している。</p>
<p>商店街</p>	<p>組合が管理する駐車場や組合員店舗の売上げが増加し、前年同月に比べ売上げが8%程増加、収益は6%程好転した。感染症拡大前の水準には程遠いが、少しずつでも売上げが回復していくことを期待している。</p>
<p>宿泊業</p>	<p>観光客だけでなく平日利用のビジネス客が増加している。4月末には観光客が多く来県し、連日満室の組合員施設もあった。イベント等の開催により、今後もさらなる観光客の増加を期待したい。</p>

美容業	入学シーズンのため、ヘアセットや着付けの予約があったが、コロナ前の水準に回復するには時間が必要だと考えている。
一般廃棄物処理	ごみ収集車を注文したが、車両部品の品薄により納車の遅れが著しく、納車されないことにより業務へ支障をきたすことを懸念している。
警備業	年度はじめのため公共工事の発注は少なく、また感染症の影響により各種イベントが中止や縮小となったが、受注単価は若干上昇したため売上げは大きく落ち込まずにすんだ。今後はイベント等が例年通りに開催されることを期待している。
建設業 (総合)	公共工事では前年同月に比べ件数は▲10%、請負金額も▲24%となった。今年度は厳しいスタートとなったが、今後の動向を注視したい。
建設業 (型枠)	仕事量が多いものの建材の高騰分を価格転嫁できず、請負価格も上がらないため厳しい経営状況が続いている。また、職人の不足・高齢化が進み、事業承継の問題から廃業を決めた組合員がいる。
建設業 (鉄構)	鋼材、溶接材、塗料など、資材及び副資材の値上げが続き、価格への転嫁もできず収益の悪化が続いている。工事期間が先の物件の受注は価格リスクが伴うため、控えるケースがある。先行きの不透明感が強い。
設備工事 (管設備)	前年同月に比べ売上げは30%ほど増加したが、収益状況は好転しない。給水装置関連資材の高騰により販売価格が上昇しているが、今後もさらにあがる可能性がある。
運輸 (タクシー)	タクシーの稼働が微増となってきているが、燃料価格の上昇などによる経費の増加に追いつかない状況。外国人観光客の入国再開などに期待したい。
運輸 (トラック)	依然続く燃料価格の高騰により、大変厳しい経営状況が続いている。感染症やウクライナ情勢の影響により、今後さらに悪化することが予想され、業界全体として景気回復の兆しは遠く感じる。円安傾向が長期化すれば荷動きも悪くなり、売上げ、収益状況が今以上に悪化していくと考えている。雇用においても、会社が求める条件を満たす人材の確保が困難な状況にある。

その他（介護）

需要は増えているが人手が足りず断っている状況。依頼を受けることができない状況が続き、依頼自体が減少してきていると感じている。

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値（好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値）

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2021/4	2022/3	2022/4	2021/4	2022/3	2022/4	2021/4	2022/3	2022/4
売上高	-10	5	15	23	3	7	10	4	10
収益状況	-20	-40	-40	-3	-20	-23	-10	-28	-30
景況感	-30	-15	-5	-17	-17	-7	-22	-16	-6

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D. I 値

